

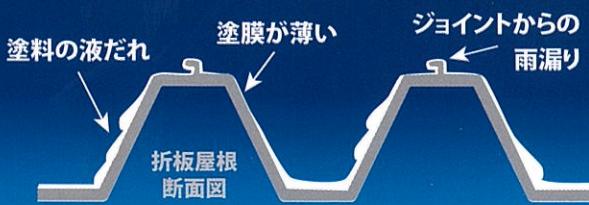
# ここが違う！一般的な工法である「遮熱塗装」と新工法の「スカイ工法」の違い

一般的な工法

遮熱塗装



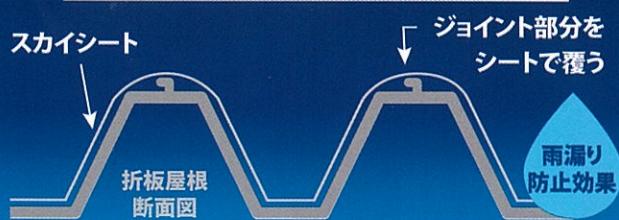
『遮熱塗装』の  
課題をクリアした  
新工法が誕生！



問題点 作業者の技量などによる塗膜の不均一が原因で、遮熱効果にばらつきが発生。

新工法

スカイ工法



メリット シートを貼る工法の為、作業者の技量に頼らなくても遮熱効果が均一です。

従来、折板屋根の熱対策として遮熱塗装が広く行われてきました。遮熱塗装は太陽の熱を反射し折板屋根の温度を大きく低下させる工法として多くの工場、店舗で採用されてきましたが、その効果が出たり出なかったりとばらつきが発生していました。その原因は遮熱塗装の塗膜の不均一によるものです。原因として作業者の技量の優劣、作業時の寒暖の差による液だれなどにより塗膜が均一にならないことが挙げられます。スカイ工法は輻射熱の反射に優れたアルミ箔を使用したスカイシートを取り付ける工法なので、作業者の技量の優劣、作業時の天候に関係なく均一な遮熱効果を発揮します。また、折板屋根特有の雨漏れを防ぐ効果もあるため、一度の施工で熱対策と雨漏り対策が同時にできる画期的な工法です。

アルミ製純度99%の遮熱シート  
**サーモバリア フィット**  
**施工例**

機械や窯等の熱対策にも大活躍！！  
夏場の工場内は日射による影響もあり、室内温度が上昇する傾向があります。  
機械の周りに施工しますと、周りの温度がグッと下がります。



## 実施効果

夏の暑さを解消するだけで、こんなうれしい効果が！ 改善にぴったり！

冷房費節約



在庫商品の劣化防止



作業環境の改善



さらに、他の遮熱工事と比較して、こんなメリットも！

雨漏り防止効果



工事は業務に支障なし



短期施工・低価格

長期耐久性  
製品保証5年

※…期待耐用年数として  
業務改善にお役立てください

お問合せ先



058-263-0010



弊社ホームページ



株式会社デミス

岐阜県知事許可（般-30）第102061号

〒500-8172 岐阜県岐阜市白山町2丁目8番地3

TEL <058> 263-0010 FAX <058> 263-2718

ホームページ <https://demis-inc.com/>

# 遮熱シートで夏涼しく快適に

室内温度  
マイナス  
約 11 ℃

※実験結果による最大温度差です

遮熱シートが  
太陽からの輻射熱を  
約 97% カット



工場・倉庫内の  
暑さの原因は  
**輻射熱!!**

## 輻射熱ってなに？

輻射熱とは遠赤外線などの電磁波のことです。  
ドラム缶で焚火をすると風が吹いているのに体が温まります。  
このように輻射熱は空気に関係なく温度の高い方（ドラム缶）  
から温度の低い方（人体）に移動し熱を伝えます。

輻射熱 = 電磁波



特許取得

サーモバリア

スカイ工法

特許取得 第6598337号

両面テープ接着施工（折板屋根用）

サーモバリアを折板屋根に沿って  
両面テープで貼る工法です



折板屋根を洗浄し両面テープを  
取付けます。



サーモバリアスカイシートを  
両面テープに接着させます。



シートとシートの合わせ目を  
両面テapeで密着させます。



先端部分からはみ出たシートを折板  
屋根に合わせてカットし完成です。

アルミ製純度99%の遮熱シート

**サーモバリア** は

**夏と冬のW効果**

“輻射熱”である  
太陽熱や暖房器具による  
熱をブロック！



## 「遮熱」の力で熱環境を改善

アルミ純度99%以上の高純度なアルミ箔を使用したサーモバリアは「優れた反射性能」が特徴で「輻射熱」に対し大きな効果を発揮します。アルミの純度が高ければ高いほど反射率は高くなり、遮熱効果が高くなります。

また、サーモバリアは放射率が低く、物体から放出される熱を抑える（=閉じ込める）特性もあります。

サーモバリア施工をしてある方は屋根裏の温度が「最大9℃」低下し、屋根裏の暖気塊の温度は「約4℃」低下することが実証されました。この効果により屋根の断熱性が向上し、冷房に必要な消費電力の大幅な低減（18%～27%）が期待できるのです。冬の放射冷却による温度低下を抑えるスカイシートのアルミ箔は熱の放射を大きく抑える働きがあるため、冬の日中の建物内の暖気を夜間の放射冷却から守る保温効果があります。

氷点下12℃になる工場の屋根。折板屋根には霜が降りていますが、スカイ工法の屋根には霜が降っていないことを観測しました。つまりスカイシートが工場内の暖気の放熱を抑え保温していたことからこのような結果になりました。

冬は温められた室内の熱が屋外へ移動します。室内から屋外へ移動する熱はほぼ「輻射熱」ですので、冬の時期は「輻射熱」を屋外に逃がさないようにすることで、効率よく室内を保温することができます。



静岡大学の実験結果

室内温度 -9℃  
省エネ -27%



↑ 実験の詳細は  
こちらから